

インフォメーション・コーナー

会 告

平成 20 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について (㊦)	78
平成 20 年度大会講演会における「企画セッション」の募集	83
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！	83
「農業農村工学会学術基金」の募金について	84
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	84
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	85
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ	85
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！	86
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水土の知（農業農村工学会誌）」 平成 21 年秋季～冬季の表紙写真の募集	87
北海道支部講習会の開催について（第 2 報） (㊦)	88
平成 19 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について（第 2 報） (㊦)	88
第 45 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 3 報） (㊦)	89
水土文化研究部会第 5 回研究会の開催について（第 1 報） (㊦)	90
学会記事	91

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

(㊦) のマークは、農業土木技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 20 年 1 月 31 日	北海道支部	地方講習会 (㊦)		札幌市	75 巻 12 号 76 巻 1 号
平成 20 年 2 月 1 日	材料施工研究部会	第 45 回材料施工研究部会シンポジウム (㊦)	材料施工分野における GIS 利用の現状と展望	高知市	75 巻 11, 12 号 76 巻 1 号
平成 20 年 1 月 31 日	関東支部	第 31 回地方講習会 (㊦) 平成 19 年度支部研修会	「農業水利施設の機能保全の手引き」について、他 水田魚道の選定と設計・施工方法	宇都宮市	75 巻 12 号
平成 20 年 2 月 14, 15 日	京都支部	平成 19 年度地方講習会 支部研修会 (㊦)	農業水利施設のストックマネジメント	名古屋市	75 巻 12 号 76 巻 1 号
平成 20 年 2 月 28 日	水土文化研究部会	第 5 回研究会 (㊦)		東京都	76 巻 1 号
平成 20 年 8 月 26 ~ 28 日	大会運営委員会	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会 (㊦)		秋田市	75 巻 12 号 76 巻 1 号

第 76 巻 2 号予定

展望：来る大規模地震に備えて！現場では今？ 小泉 勝

小特集：農業水利施設の大規模地震対策への取組み ()

埋設管の地震被害と耐震対策 毛利栄征他

大規模地震動に対する盛土水路の耐震性能と照査手法の検討 岡本 大樹

群馬用水における水路橋耐震補強について 飯田 直宏他

堰（頭首工）の耐震性照査手法について 上島菜美子他

土地改良施設における耐震性の向上について 瀬戸 太郎

技術レポート

北海道支部：転換畑におけるダイズの生産力判定のためのシリンドーインテークレート法による土壌物理性評価：塚本 康貴他

東北支部：馬見ヶ崎川合口頭首工における低周波音対策 高橋 寛

関東支部：人工衛星（RADARSAT）画像を用いた水田作付け状況評価について：温水 福実

京都支部：石川県志賀町におけるトミヨの生息場所のフォローアップ 池田 千也他

中国四国支部：圃場整備における湿性動植物の保護・保全対策：進藤 正章

九州支部：県営クリーク防災機能保全対策事業による環境への影響について：小野 力造他

小講座：設計地震動 立石 卓彦

講座：生態系配慮の基礎知識（その 5）生態系評価の実際 小出水規行

私のビジョン：根無し草のはなし 田頭 秀和

平成20年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について

研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



平成20年度農業農村工学会大会講演会は、平成20年8月26日(火)、27日(水)、28日(木)の3日間、秋田県立大学秋田キャンパスで開催されます。また、29日(金)には現地研修会が行われます。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。なお、本年度からこれまでの「口頭発表」に加え、「ポスター発表」を本格実施します。

今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌3月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限り、平成20年4月入会も可とします。非会員の発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、**企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めません**(お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません)。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態の変更をお願いする場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態は、学会ホームページで5月末までにお知らせします。また、発表会場の設備、ポスターの大きさ等については、続報でお知らせします。
- (6) **講演時間**：口頭発表は1課題15分(発表12分、質疑3分)です。また、企画セッションは1セッション95分です。ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属・氏名、講演概要(200字以内)を、大会概要集に集録します。
- (9) **座長総括**：平成20年度大会から、各セッションの内容を座長総括として担当座長にまとめていただきます。会員相互の理解を深め、また研究分野間の連携を進めるために行うものです。研究動向の総括や各発表の関連と位置づけなどを、セッションの冒頭もしくは最後の5分間で報告してもらいます。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出、および申込料2,100円(消費税込み)の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料の返金はできません。**郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。**
- (2) 投稿原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙に印字した原稿で投稿して下さい。後述の「4. 講演原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成にご協力下さい。CD-ROM作成を容易にするため、投稿原稿のファイルをPDF形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容のExcelファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 投稿原稿PDFファイルならびに投稿票Excelファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)として下さい(例：「taikai tarou.pdf」、「taikai tarou.xls」)。これらファイルを電子メールでtaikai@jsidre.or.jpへお送り下さい。メール発信の際、表題(Subject)も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを返信します。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、郵送の場合は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に講演要旨在中と朱書きしてご送付下さい。原稿は、汚したり、折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒(角型2号)で送付して下さい。

郵送してもらうもの

- 1) 講演申込料の振替の写し
- 2) 原稿
- 3) 原稿コピー 4部
- 4) 投稿票
- 5) 投稿票コピー 2部
- 6) 入会申込書 (非会員のみ)

データ送信してもらうもの

- 7) 投稿票 Excel ファイル
- 8) CD ROM 版講演要旨集用 PDF ファイル

(7) 締切：平成 20 年 3 月 31 日 (月) 消印有効 (遅延は不可)

(8) 申込・問合先 農業農村工学会事務局大会担当 (花塚) まで

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館内

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : taikai@jsidre.or.jp

郵便振替 : 00160 8 47993 (加入者名 : 農業農村工学会)

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい (4 月以降入会者は不要)
 - (2) 講演の概要は、必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい (英文不可)
 - (3) プログラム編成に使用しますので、氏名、所属機関、講演題目 (副題も含めて) は、必ず講演原稿と一致させて下さい。
 - (4) 講演希望部門 (第 1 希望・第 2 希望) とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌 81 ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
 - (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は、本誌 82 ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。
- (下表の 2 段目、3 段目は、1 段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

	代表 発表者 印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1									下の段を右につづける
2									
3									
8									

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E mail	講演題目	講演題目(英文)	第 1 講演 希望部門	第 2 講演 希望部門

下の段を右につづける

キーワード 1	キーワード 2	キーワード 3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	発表 形態	変更 諾否	講演の概要 (200 字以内)

4. 講演原稿の書き方

(1) 原稿用紙は、A4判(横 210 mm, 縦 297 mm)の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上: 25 mm, 下: 27 mm, 左: 23 mm, 右: 25 mm

(2) 原稿は、オフセット印刷で縮写され、B5判の大きさになります。

(3) 書式

文字: 文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字(、、…、、…等)も使わないで下さい。

上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名(連名の場合には代表発表者名の前に印をつける)は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記して下さい。

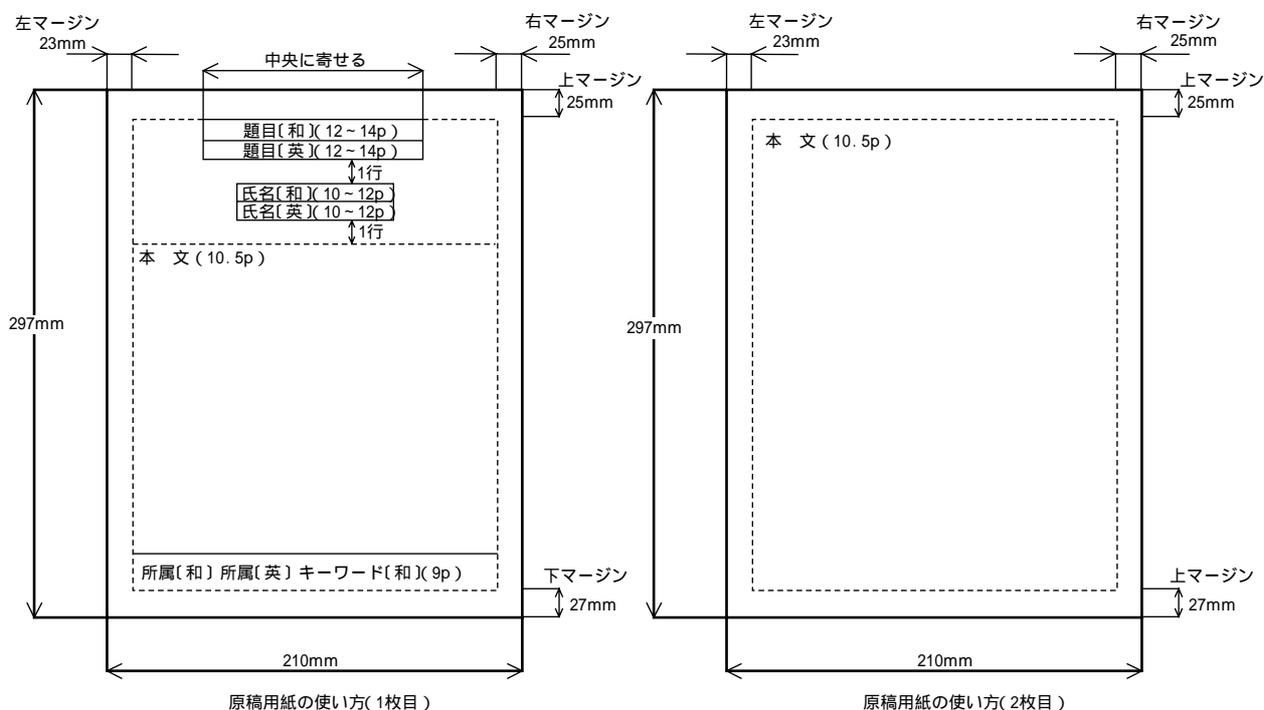
所属は、1ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書込み(あるいは貼込み)、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表表題にも英語を併記して下さい。

(4) その他: 2枚の原稿(コピー含む)の裏面右上に、鉛筆で、代表発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

(注意) 平成 19 年 11 月 21 日に開催した大会プログラム編成小委員会において一部改訂

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成20年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関（共同研究の場合は、代表発表者に印をつけて下さい。氏名の順序は、原稿と一致させて下さい。）

	代表発表 者に 印	会員番号	氏 名	フリガナ	所属（和）
				ローマ字（姓_名）	所属（英）
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

代表者の連絡先（住所）〒

(TEL)

(FAX)

E mail

Excel ファイルの送信日：

2. 講演題目（題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。）

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門（第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。）

第1希望		第2希望	
------	--	------	--

1. 水理 2. 水文・水質・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード（上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。）

1		2		3	
---	--	---	--	---	--

5. 図表などの数

写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数

6. 発表形態

	1. 口頭発表 2. ポスター発表
--	-------------------

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか？

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要(200字)(必ず日本語で記入して下さい。)

平成 20 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 20 年度大会(8月26～28日,秋田県立大学秋田キャンパス)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は1月31日(木)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ:「オープン・タイプ」、「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名,所属,連絡先電話・FAX・E mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)

なお,類似した企画が提案された場合,調整をお願いすることがあります。また,企画セッション数の上限を20程度とします。企画の採否については,研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は,特定のトピックについて,原則95分間のセッションを,オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は,通常の発表スタイルはもちろん,パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし,セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも,最低2～3名以上の発表があることが前提です。なお,セッションの演者は会員であることを要しませんが,大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションのテーマには,科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表,特定テーマに関する最新情報の紹介,等を想定していますが,会員の皆様の自由な発想で企画セッションを利用して下さい。

各研究部会の研究集會も,この企画セッションの一つとして実施して下さい。研究部会は,企画セッションの開催に向け,研究集會の内容を検討下さい。

企画セッションでの発表者は,従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし,企画セッションでの発表は,プログラム編成上の理由から,1人1件に限ります。各オーガナイザーは発表者選定にあたり,この点に十分留意して下さい。

なお,企画セッションとはいえ,研究発表と同等ですので,講演要旨集には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また,各セッションは95分を予定していますが,プログラムのブロック割りのため,セッション時間が95分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画の申込料は,講演題数にかかわらず6題分(12,600円)となります。

今後のスケジュールは,以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切:2月8日(金)
2. 研究委員会で調整の後,応募テーマの採否の連絡:2月15日(金)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接):2月15日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切:3月21日(金)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切:3月31日(月)

申込・問合先:(社)農業農村工学会大会企画セッション担当(花塚)

〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : taikai@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD,また,通信教育で最大年間18CPD取得できますので,是非,通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で,かつCPD機構会員の方は,農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作

成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成18年度までに43件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下

のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、は、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年12月末には Vol 5, No 4 が発刊された。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年12月末には Vol 5, No 4 が発刊された。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
 Department of Environmental Science, Konkuk University,
 Seoul, Korea
 Dr. Yutaka MATSUNO
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
 Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University of
 Tokyo, Tokyo, Japan
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)
 Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
 Department of Bioenvironmental System Engineering, Na-
 tional, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 76 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上り 4 ページ厳守)
76 巻 3 号 基幹水利施設のストックマネジメント (仮)	公募終了	
4 号 学会名称変更関連	公募なし	
5 号 第 1 回アジア・太平洋水サミット関連	公募なし	
6 号 大会関連	公募なし	
7 号 耕作放棄地の解消と再発防止 (仮)	公募終了	平成 20 年 1 月 15 日
8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例 (仮)	平成 20 年 1 月 28 日	平成 20 年 4 月 14 日
9 号 電磁波計測技術の農業・農村工学分野への活用 (仮)	平成 20 年 3 月 25 日	平成 20 年 5 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ (1,800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内 (1,200 字) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

76 巻 8 号テーマ「農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例」(仮)

平成 13 年の土地改良法改正によって、農業農村整備事業では環境との調和への配慮が事業実施の原則とされています。これを受

けて、食料・農業・農村政策審議会に設けられた農村振興分科会・農業農村整備部会・技術小委員会において、「環境との調和に配慮

した事業実施のための調査計画・設計の手引き」の検討が行われました。この結果、「第1編：基本的な考え方、水路整備」(平成13年)、「第2編：ため池整備、農道整備」(平成14年)、「第3編：ほ場整備(水田・畑)」(平成15年)として、工種別に環境配慮に対する基本的な考え方と留意事項がまとめられ公表されています。さらに、工種横断的に環境配慮の手法や工法をより具体化した「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」(H18)が策定されています。このような環境に配慮した農業農村整備事業は、たとえば、平成19年6月24日号の朝日新聞において『環境ルネサンス』「環境に配慮した農地の整備」として取り上げられ、社会的にも高い評価が得られつつあります。

本誌では、「手引き第2編」の公表後、「環境との調和に配慮した計画・設計の現状」という小特集(Vol.71/No.11,2003)が組まれ、環境への配慮を実現する場合に生じる現実問題を論じる報文が掲載されました。また現在、環境配慮の対策や手法について具体的な知識・情報を伝える講座「生態系配慮の基礎知識」が連続掲載されているところです。事業の推進に難しさがあるとはいえ、手引きの公表から数年が経過しており、地域の考えと特性を生かした特徴ある環境に配慮した事業が全国で展開されていると思われまふ。そこで、農業農村整備事業における環境配慮の取組みの内容について、内在する諸問題とその解決策あるいは将来展望なども含んだ報文を広く募集いたします。

76巻9号テーマ「電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用」(仮)

近年の情報技術等の進歩により、電磁波を用いた計測技術が飛躍的な革新と普及を遂げ、あらゆる分野への応用が行われています。

農業農村工学分野においても、電磁波レーダ法はコンクリート、埋設管路等の構造物非破壊診断技術として活用されておりまふ。また地中レーダ等の電磁波を用いた地盤計測方法は地中埋設物検知から地質構造調査、土壌水分動態把握まで幅広く活用されておりまふ。

一方、昨年秋に一般的な利用が開始された陸域観測技術衛星「だいち(ALOS, Advanced Land Observing Satellite)」に搭載された合成開口レーダは、農村地域の災害監視や作物生育状況監視等への活用が期待されておりまふ。

本特集号では、このような電磁波を用いた調査計測技術の農業および農業農村工学分野における応用について、適用事例、技術動向、展望等に関する報文を募集いたします。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあまふ。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りまふ。

5. 締 切 平成20年3月30日(秋季～冬季の写真)

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを中心とします。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

北海道支部講習会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時 平成20年1月31日(木) 9:30~16:30
 2. 会場 札幌市・北海道大学学術交流会館
 (札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)

3. プログラム

- 1) 設計基準の改定について
 ・土地改良事業計画設計基準・計画「ほ場整備(畑)」改定の解説
 ・「景観」と「水質」への配慮に係わる計画基準の一部改定について(「ほ場整備(水田)」,「ほ場整備(畑)」,「農道」)
 農林水産省農村振興局企画部資源課計画基準班 増尾 学
 2) 「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」の解説
 農林水産省農村振興局企画部事業計画課環境計画班 長野誠司
 3) 「農業水利施設の機能保全の手引き」について
 農業水利施設のストックマネジメント

- 農林水産省農村振興局整備部水利整備課施設管理室 野々村圭造
 4) 「農業用ダム機能診断マニュアル」の解説
 農林水産省農村振興局整備部設計課設計審査班 川中正光
 5) 土地改良事業の新たな費用対効果分析について(ポイント)
 農林水産省農村振興局企画部事業計画課 利根基文

4. 参加申込・問合せ先

氏名・所属・会員/非会員を明記の上,メールまたはFAXにてお申し込み下さい。申込の締切は1月21日(月)です。
 〒060 8589 北海道大学大学院農学研究院内
 農業農村工学会北海道支部事務局
 担当: 柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
 ☎011 706 3641 FAX 011 706 2494

5. 参加費

会員 3,000円, 非会員 4,000円

平成19年度京都支部地方講習会・研修会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成19年度京都支部地方講習会・研修会を2月14日(木), 15日(金)の2日間にわたり開催します。本地方講習会・研修会の開催要領, 参加申込については, 下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 開催日時

- (1) 講習会 平成20年2月14日(木) 13:30~17:00
 (2) 研修会 平成20年2月15日(金) 10:00~15:30

2. 開催場所

中電ホール

〒461 0006 名古屋市東区東新町1番地

TEL・FAX: 052 951 6908

名古屋駅からは地下鉄東山線, 「栄駅」5番出口から東へ徒歩約5分

3. プログラム

- (1) 2月14日(木) 地方講習会

12:30 受付開始
 13:30~13:45 開会挨拶
 13:45~14:30

土地改良事業計画設計基準・計画「ほ場整備(畑)」改定の解説
 農林水産省企画部資源課計画基準班課長補佐 増尾 学

14:30~15:30

「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」の解説

農林水産省企画部事業計画課環境計画班課長補佐 長野誠司

15:45~16:45

土地改良事業の新たな費用対効果分析について

農林水産省企画部事業計画課広域基盤計画班課長補佐 利根基文
 16:45~17:00 質疑応答

17:00 閉会

- (2) 2月15日(金) 研修会

テーマ「農業水利施設のストックマネジメント」

9:30 受付開始

10:00~10:10 開会挨拶

10:10~11:10

ストックマネジメントの取組みと「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説

農村振興局整備部施設管理室管理技術第2係長 篠原亮二

11:10~12:10

農業水利施設機能診断のための調査技術の研究開発

(独) 農村工学研究所施設資源部水利施設機能研究室

主任研究員 森 充広

13:15~14:15

農業水利施設の保全管理・更新に係る取組み(仮題)

愛知県農林水産部農地計画課 用地・管財G主査 畔柳英二

14:15~15:15

補修・改修におけるコンクリートのひび割れ解析

三重大学生物資源学研究所准教授 石黒 寛

15:15~15:25 質疑応答

15:25~15:30 閉会挨拶

講師の都合により, 講演テーマ等を変更する場合があります。

4. 参加費等

区分	講習会	研修会	合計
会員	1,000円	1,000円	2,000円
非会員	1,500円	1,500円	3,000円

5. 参加申込方法

(1) 申込書

所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申し込み下さい。

(2) 申込締切日

平成 20 年 1 月 31 日 (木)

(3) 参加費の納入方法

銀行振込または当日払いです。どちらで納入するか申込用紙にご記入下さい。当日払いの方はお釣りのないようご準備下さい。

(3) 参加費の振込先

三菱東京 UFJ 銀行 取扱店：東海公務部名古屋市役所出張所
口座番号 (普通) 1126750

口座名称 農業農村工学会京都支部東海事務局代表 初川栄治
振込手数料は、各自にてご負担願います。また、振り込み元を確認するため、所属、氏名等をご記入下さい。

なお、振込み後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意下さい。

【申込様式】

平成 19 年度 京都支部地方講習会・研修会参加申込書

所属機関

所在地 (〒)

連絡者氏名

TEL

FAX

所属	氏名	会員区分 (会員・非会員)	講習会 1,000円 (1,500円)	研修会 1,000円 (1,500円)	合計 (円)	農業土木技術者継続教育機構会員番号	支払方法 振込・当日
例	東海太郎	会員	1,000円	1,000円	2,000円	123456	振込
計		会員 非会員	人 人	人 人	円		

注) ①会員区分については、会員もしくは非会員、支払方法については、振込もしくは当日をご記入ください。

②本講習会・研修会は、農業土木技術者継続教育機構の CPD 単位にカウントされますので、個人会員の方は、会員番号をご記入下さい。

6. 参加申込先

東海農政局整備部設計課 藤井, 初川, 筒井
〒460 8516 名古屋市中区三の丸 1 丁目 2 番 2 号
☎052 223 4634 FAX 052 219 2667
E-mail: takanori_tsutsui@tokai.maff.go.jp

7. その他

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申し込み下さい。

第 45 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 3 報)

材料施工研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
- テーマ 材料施工分野における GIS 利用の現状と展望
- キーワード GIS, 土地改良施設, 地盤, 農地情報
- 期日 2008 年 2 月 1 日 (金) 10:00~16:00
- 会場 高知県立県民文化ホール グリーンホール
〒780 0870 高知市本町 4 3 30
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~hall/>
- プログラム
 - 開会式 10:00~10:10
 - 材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10:10~10:40
 - 講演発表 10:50~15:00
基調講演 10:50~11:50
10:50~農地情報の整備・活用に向けた取組みの現状と今後の方向
農林水産省農村振興局地域整備課課長 仲家修一
一般講演 12:50~14:50

- 12:50~(1)GIS を活用した中山間地域における生活交通確保と健康増進効果の分析
株式会社バイタルリード代表取締役 森山昌幸
- 13:20~(2)農業水利施設の保全計画策定における GIS の活用事例
富山県土地改良事業団体連合会係長 竹沢良治
- 13:50~(3)農業用パイプラインの保守履歴管理 GIS の構築
農村工学研究所広域防災研究チーム研究員 井上敬賢
- 14:20~(4)GIS による地盤情報の共有と活用
京都大学大学院農学研究科助教 山本清仁
- IV. パネルディスカッション 15:00~16:00
コーディネーター: 京都大学大学院農学研究科
准教授 小林 晃
- V. 閉会式
7. 参加費 4,000円 当日, 受付にて徴収させていただきます。
8. 申込

以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。

- ①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④TEL, FAX, E-mail アドレス
 - ⑤弁当 (代金 ¥1,000) 予約注文希望の有・無
- 弁当の予約注文は、1月18日以前に申し込まれた方に限らせて頂きます。

9. 申込先 〒783 8502 南国市物部乙 200
 高知大学農学部気付 材料施工研究部会事務局
 申込受付担当: 松本伸介, 佐藤周之
 TEL&FAX: 088 864 5150
 E-mail: syu@kochi-u.ac.jp

- 10. 申込締切 2008年1月25日(金) (1週間 延長しました。)
- 11. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願い致します。
- 12. 問合せ先 申込先と同じです。

水土文化研究部会第5回研究会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 1. 日時 平成20年2月28日(木) 13:00~16:00
- 2. 場所 虎ノ門パストラル・新館6階「アジュール」
〒105 0001 東京都港区虎ノ門4 1 1
☎03 3432 7261 (代)
- 3. プログラム (表題は変更されることがあります)
講演 「バリ島の稲作文化と水利システム」
早稲田大学教授 海老澤 衷
「骨寺遺跡保存と基盤整備との調整」
岩手大学教授 広田純一
「一の井堰の変遷と現況の維持管理」
(財)建設物価調査会会長 松本精一
- 4. 参加料 無料
- 5. 参加申込および連絡先
〒305 8609
茨城県つくば市観音台2 1 6

(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
 農村総合研究部都市農村交流研究チーム(担当 山下祐作)
 ☎029 838 7559 FAX 029 838 7609
 E-mail: yamash@affrc.go.jp

- 6. 参加申込要領
 整理の都合上、2月20日(水)までに以下の要領にてお申し込み下さい。
 氏名 _____ (CPD番号 _____)
 所属機関 _____
 所在地 _____
 電話番号 _____
 FAX番号 _____
 * 部会員以外の方も参加できます。
 * (社)土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

地域環境工学シリーズ6

農業と環境の調和をめざして (社)農業農村工学会発行

欧米の農村環境整備

「欧米の農村環境整備」編集委員会・執筆者

(五十音順, 所属は2001年6月現在, 印は非委員)

石井 圭一	農林水産政策研究所国際政策部	小山 善彦	The Univ. of BIRMINGHAM, The Japan Centre
石光 研二	(財)農村開発企画委員会	佐藤 洋平	東京大学大学院農学生命科学研究科
大橋 欣治	鹿島建設(株)技術研究所	千賀裕太郎	東京農工大学農学部
勝山 達郎	農林水産省農村振興局整備部設計課	八丁 信正	近畿大学農学部
楠本 侑司	(財)農村開発企画委員会	広田 純一	岩手大学農学部
小谷 康敬	農林水産省農村振興局整備部農村整備課	吉永 健治	農林水産政策研究所国際政策部

A5判 約230ページ 定 価 3,300円(内税・送料学会負担)
 会員特価 2,900円(内税・送料学会負担)
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105 0004 港区新橋5 34 4
 (社)農業農村工学会
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494